

**[虫ほし抄] 新収『西荘文庫目録』：小津桂窓と西  
荘文庫**

著者	山本 卓
雑誌名	関西大学図書館フォーラム = Kansai University Library forum
巻	10
ページ	28-31
発行年	2005-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00022029">http://hdl.handle.net/10112/00022029</a>

# 新収『西荘文庫目録』

## — 小津桂窓と西荘文庫 —

山本卓

このたび本学図書館は、小津桂窓自筆を含む3種類の『西荘文庫目録』を収蔵する運びとなった。振り返れば、昭和20年代から長きにわたり、伊賀上野の沖森書店を軸に売り出された一連の西荘文庫旧蔵本の掉尾を飾る出品になるのだろう。本稿をなす所以である。

### 小津桂窓

小津桂窓は伊勢松坂の人。名は久足。通称新蔵・与右衛門など。桂窓は号。文化元（1804）年生まれ安政5（1856）年11月13日没。享年55歳。小津家の祖先は伊勢一志郡小津出身といわれ、慶長のころ清兵衛が松坂に出て伊勢木綿などを扱う商人となり、後には紀伊徳川家の御用達とまでなる大店に発展したという。

小津家は京坂・江戸に出店を持つ富商で、桂窓は文化元年松坂百足町の本宅で生まれた。文化14年には、14歳にして本居春庭に入門し、国学を学んでいる。詩歌・和歌に長じ、多くの著作が自筆稿本として残されている。京坂・江戸の出店の巡回もしていたようで、紀行の体裁の著作が多いようである。それらが、天理図書館・無窮会図書館神習文庫・早稲田大学図書館などに所蔵されていることはよく知られている（国書総目録でも知られる）。その外に、『国書総目録』未載の小津桂窓自筆稿本が約180点が日本大学図書館（総合学術情報センター）に所蔵されることを知った。それは大沢美夫氏「小津桂窓稿本「記行」の部」<sup>(ママ)</sup>（日本大学国文学会『語文』20輯昭和40年3月）によってである。同稿によれば、「小津家の蔵本は、西荘文庫蔵印本として各地に存在し保護されているが、桂窓自筆本を公表するのは始めてである。最近、交友のあつた馬琴の書簡類と共に、現存する百八十冊の稿本を日本大学図書館で入手、うち記行の部を紹介することにした。」とし



『西荘文庫目録』

て、館蔵の桂窓稿本のうち紀行62点の書名・年月・紀行の目的地などが簡略に記載されている。同館に問い合わせたところ、これら桂窓自筆稿本群は準貴重書として保存しているが、未整理のためその所蔵目録を作成しておらず、また受け入れリストの類もないようで、その内容は杳として知れない由であった。館務多端とは付度するが、早急なる整理・公開をお願いしたい。

### 馬琴の知己桂窓

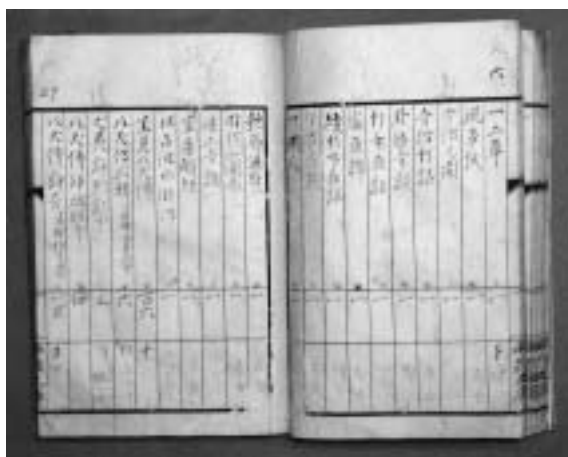
桂窓は、曲亭馬琴の親密な仲間として著名である。『馬琴日記』によれば、桂窓の名は文政12年1月15日に初出する。その時は馬琴が「多務」のため門前払いされている。そののち数度馬琴宅を訪れたようだが対面には至らず、同年2月5日漸く念願叶い「呼入、対面、雑談数刻」「美少年録・白女辻占校合ずり本・作者番付一冊、右三部かし遣ス」（日記）。初対面に関わらず馬琴が丁重に遇しているのは、馬琴にとって数少ない知己である殿村篠斎（常久）〈伊勢松坂の国学者〉と小津桂窓との緊密な親交関係からであろうとされる。その後、桂窓は商用にて江戸店に出向くことも度々であったようで、その際



ど103部、「俳書」部は6丁半、「誹諧類題集 続共下」(十冊以下、120部、「洒落近古」部は8丁、「好色一代男」(7冊)はじめ浮世草子・洒落本など156部、「和伝記」部4丁、「そろま大寄大小」「十二段」はじめ浄瑠璃本・評判記・劇書など79部(うち11行墨書棒引)、「雑々」部3丁、「安濃白水記」(1冊)はじめ実録・怪談・角力関係・能・菓子関係など多様な書籍類51部、「江戸蔵書」部1丁、「古事記」はじめ多様な12部で、江戸支店の蔵書かと思われる。さらに「別目録」の部が半丁あり、「平曲書 | 一函」「雑々書 | 四函」とある。

(b)

- 表紙 素色地に渋引 23.2×16.2 (元表紙)
- 題簽
  - ・左肩単辺 「桂窓叢書目録 和漢」(墨書・元題簽)
  - ・中央左より「西荘文庫蔵書目 小津桂窓筆」(墨書・後題簽)
- 内題・尾題なし
- 用紙 四周単辺。17.5×12.7の毎半葉ごとに十行の罫線。柱刻「桂窓」と刷られた用箋。
- 丁数 全49丁(丁付け なし)。
- 蔵書印 第1丁オ「桂窓」の丸印。最終丁ウ「桂窓／(子犬かと思われる絵)」の角印。
- 備考 本書は桂窓自筆と思われる。
- 概要 「桂窓叢書 和漢部」15丁、「一 歴代詩選」から「三百 笑堂福聚」まで300点の和漢の漢詩集や漢学関係書・漢文の戯作など(以下同断)。「桂窓叢書 和漢部二編」5丁、「一 三体詩絶句」から「百 図書集成本書考」まで100点。「桂窓叢書 和漢部三編」5丁、「一 演雅詩 長恨歌伝」から「百 米菴千字文」まで100点。「桂窓叢書 和漢部四編」8丁半、「一唐



小津桂窓筆『西荘文庫目録』和稗史の部分

詩聚英」から「百七十 武英殿珍版式」まで170点。前記のもの外に紀行などが目に付く。「桂窓叢書 和漢書 小本」5丁、「一 佩文齋詠物詩選」から「百 四庫全書簡明目録」まで100点の詩集・詩書などの小本。「桂窓叢書 和漢三十種」1丁半、「一 唐詩解頤」から「三十二 西洞類書目録」まで30点。紀行など。「和漢類書五編」8丁、「一 唐絶搜奇」から「百六十 文房肆攻図説」まで160点。

(c)

- 表紙 素色地に渋引 24.0×16.9 (元表紙)
- 題簽
  - ・左肩単辺 「雑目録 全」(墨書・元題簽)
  - ・中央に方簽「丹鶴叢書/古写本/古写本 小/名家筆蹟/松岡恕庵所持/兼葭堂所持書/名家所持書/檜垣麗女著述/叢書卷数」(墨書)
- 内題・尾題なし
- 用紙 四周単辺。17.3×12.7..。毎半葉ごとに十行の罫線。柱刻「桂窓」と刷られた用箋。
- 丁数 全51丁(首尾に遊紙4丁含む。丁付け「なし・一~四九・なし」)。
- 蔵書印 第1丁オ「桂窓」の丸印。最終丁ウ「ひさたり」の角印。
- 備考 筆蹟は(a)(b)とは少し異なるようである。
- 概要
  - ・「丹鶴叢書目録」6丁半、「一正中御飾記」から「百廿一 今昔物語」までの121冊。
  - ・「古写本類」5丁半、「儲君親王宣下」はじめ105点。「古写本 小花二目録外」4丁半、「皇年代記略頌」はじめ83点。「名家筆蹟 花四外絵図部」2丁半(半丁は貼り紙)、「篝火 尊朝法親王筆」はじめ36点。「松岡恕庵所持書 花百七十」10丁、「大和豊秋津嶋卜定記」184点。「兼葭堂所持書」3丁半、86点。「名家所持書 花式百三十三」4丁、「雲州消息 松下見林所持」はじめ73点。「檜垣麗女著述 □」1丁半、「著術目録 一」はじめ27点。「別□所持」半丁、「池藻屑 花九二入」はじめ4点。「叢書」半丁、「初編 花一 四百五十」はじめ9編の叢書の巻数。「和漢叢書」半丁、「初編 月一 三百」はじめ6編の叢書の巻数。

(2) 『西荘文庫 甲乙』の全2冊本。

- 表紙 黄土色地に茶色の格子刷毛目 26.9×19.8(元表紙)

○題簽 左肩単辺「西荘文庫 甲(乙)」(墨書)  
(元題簽)

○内題 「西荘文庫」乙の巻・内題

○用紙 四周単辺。22.0×14.0の毎半葉ごとに8行3段の罫線。刷り用箋。

○全265丁(甲175丁、乙190丁)

○蔵書印 なし。

○備考 書名・冊数などは原則として墨書であるが、甲巻末の15丁はペンを使用する。その他、書名をペンで訂正・追加する箇所もあり。

各書名には原則として「合」の朱印または「此本無シ」のゴム印の貼り紙のいづれかを付す。また、「他写」のゴム印を押す場合もある。

なお、作成年等の記載はないが、本書(2)『西荘文庫 甲(乙)』は明治期に文庫管理用に作成した目録で、売り立てにも利用された物と考えられる。

○概要 甲巻 後補の見出し(以下「見出し」と略す)「花の部」は「花壺」から「花百七十」まで67丁、数え方にもよるが(以下同断)2402点。「八幡宮本記」はじめ国書を中心。見出し「雑口」(「雑書箱部」を含む)は正印・天印・ホ印箱・二印箱・礼楽射御之部・僧伝ノ部・不足本調物箱・和歌字ノ箱・氏族略伝小本ノ部・十二ノ部・番無など27丁1056点、見出し「桂窓」(二印随華箱・り印・ハ印・チ印を含む)いろは印や数字印の部など52丁、2230点。見出し「仮口」は川・山印や十干印などで、15丁、605点。「仮口」はさらに別筆とペン字で別項があり、れの部。東西南北吉水経など15丁、682点。乙巻 見出し「月」は月一印から月百七十二印・小保印・外印など経・史・子・集47丁1473点、見出し「桂窓」は桂窓叢書<sup>(ママ)</sup>和漢部一編から五編19丁859点、「小本」は桂窓叢書小本部一・二編および桂窓叢書<sup>(ママ)</sup>和漢部小本、都合11丁449点。この見出し「桂窓」(桂窓叢書小本部一二編を除く)が(1)の(b)桂窓叢書目録和漢に相当する。「書目」は礼楽射書御数陰陽…いろは…外・江戸蔵書など29丁、1000点。この「書目」所収書は大略(1)(a)に相当する。次の見出し「桂窓」は十二から四十九印までが15丁、624点、および花百七十(松岡恕菴所持・兼葎堂所持)・花式百三拾式(丹鶴叢書目録)・花式百三拾四(古写本)・花式百三拾三(名家所持本)・花八檜垣麗女所持)・花四(名家筆蹟)・

古写本(小花二目録外)、以上の後半八項目は先述(1)(c)「雑目録」に相当する。見出し「仮口」は仙乃伎劇一から劇四・役・浄一(見卅一印)から浄九部(見三十九印)17丁603点、印ナシ5丁、209点。見出し「見印」見一から見八十、見番外・残物で全26丁、996点。

(3)『大正十四年十二月作 西荘文庫 第巻号(～第五号)』

○黄白色表紙無地(仮綴じ) 24.5×16.0種

○表紙右肩に「大正十四年十二月作」と墨書で打ち付け書き

中央に「西荘文庫/第巻号(～五号)」と墨書打ち付け書き

内題等なし

○用紙 半葉に12行の用箋(印刷)

○紙数 巻号120丁、第式号151丁、第参号63丁、第四号45丁、第五号48丁

○備考 カーボン紙による複写。

○概要 分類目録の型式で1行に書名・冊数・記号(置き場所)を記載する。

第巻号は神祇48点・国史60点、雑史208点、氏族186点、記録46点、有職126点、和歌437点、和文129点、詩文35点、字書71点、類書143点、随筆174点、記行62点、地理162点、雑書498点、図会400点の書物等を収録。

第式号は有職203、和歌595、和文186、字書32、詩文13、地理292、記行189、雑書1458、氏族220、雑史142、国史11、神書151。

第参号は書目19、経書100、史140、子378、集393、雑々138、語録71、積書133。

第四号桂窓叢書<sup>(ママ)</sup>和漢部一編300、同二編100、同三編100、同四編170、同小本100点、同三十種30、和漢類書五編160。この号は(1)(b)に相当する写本。

第五号は、茶155、書画伝記100、日用学46、稗史唐本38、翻刻通俗稗史67、和稗史66、画103、俳諧類120、洒落近古156、和伝奇74、雑々51、江戸蔵書12、別目録2函。この号は(1)(a)に相当する写本。

なお、天理図書館に問い合わせたところ、同館には小津桂窓自筆西荘文庫目録「月の巻」一冊が所蔵される由である。本稿執筆時には、同館春期休業中のため閲覧に至っていない。

天理本「月の巻」を含めて、本目録の活字公刊が望まれる。

(やまもと たかし 文学部教授)